2020年(R2年) 9月
No. 343

ひとはつうしん

(題字:齋藤心)

(ホームページアドレス)http://hitoha-fukushi.com (メールアドレス)honbu@hitoha-fukushi.com

社会福祉法人 ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

全国各地で記録的な降水量をもたらし、長く居座った梅雨が明けたかと思うと、照りつける太陽のもとで澄み渡る夏空が広がっています。(この通信が皆様のお手元に届くころには、黄金色の稲穂が揺れているかもしれませんが…)

私事ですが、今年でひとはへの入職25年、ひとはと銀婚を迎えました。夫婦で言えば、私とひとはは円熟期といったところでしょうか。一方で私の職業人生の相方である年上女房のひとはは、すでに通信で告知をした通り、今年で35周年を迎えます。私がひとはと関わりを持ち始めた頃は、無認可から法人認可に変わる端境の時期で、平屋の現作業所棟が完成間近の頃でした。その頃は毎週、毎月のように行事を催し、ボランティアや地域の方に足を運んでいただき、ひとはの夢をかなえるため、ひとはの理念を実現するためと、夢を語り、汗をかき、力を出し合い、少しずつ理想とする形が出来てきたように思います。

ひとは福祉会での子ども達に対する取り組みも、あるお母さんの「小学生になったら夏休みがあるから仕事が困る」の声に、無制度の中から"一人の困った"は、地域の困った"に押し上げ、地道な取り組みから微力ながらもニーズに対応を重ね、現在では吉田町と甲田町に拠点を置いて事業を行っています。福祉の世界は一人一人の「意識」が大切だと思いますが、それ以上に「気づき」が大切であり、「気づき」を生かすためには、「想像力」と「創造力」を働かせることが必要であると思います。

ひとはは、これからも仲間、地域の声に耳を傾け、40周年、50周年と「気づき」を大切に、歩みを進めていきます。

(児童支援部 佐竹 正充)

35周年記念号のデザインを依頼した**竹原 真二さん**に伺いました。

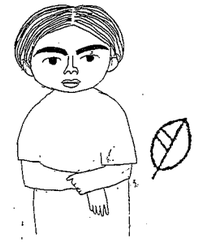

イラスト:高代洋和

出身地…広島市中区

紡住の魅力…紡住する前の会社員時代は、パソコンモニター前でのデスクワークでしたので、緑が近くにある今の生活は、とても心地よいです。

協力隊の活動…現在は、安芸高田市内の農業法人を紹介するウェブサイト「akitakata.nougyou」を制作しています。取材・撮影・編集・デザインをしています。

ひとはの印象について

私はアートを学ぶためポルトガルへ留学していたことがあります。実体験として、異文化での生活は驚くことがたくさんあり、同時に、マクドナルドやスターバックス等、皆同じ価値観を共有していることも印象的でした。加えて、ヨーロッパのアートに関してポルトガル人の友人より自分の方が詳しかったり、逆に友人の方が日本のアニメをよく知っていたりと、国や地域、世代という従来の枠組みでは説明できない多様性の存在を感じました。

これらの体験から、作品制作において、性別や国、人種や障害者という従来の境界線を越えた"個々のあり方"を模索したのを覚えています。

ひとはつうしん等で、利用者の方、職員の方のことと共にエピソードや感じたことが綴られているのを見させていただいていると、その立場を超えた"個々のあり方"が浮かび上がってくるような印象を受けました。

通信配達について

ひとはの○○さん、近所の○○さんというお付き合いがしたい思いで、これまで向原町内や甲田町内の方々へ通信を手渡しで配達しておりましたが、昨今の感染症の状況を鑑み、当面、ポストへの配達とすることをお知らせ致します。(編集委員より)

ひとはの日々

「思い込みに対して反省」

7月の4連休について高伏さんから「今回は帰らない」と話がありましたが、いつも長い休みは帰宅していたので、また気分が変わるだろうと思っていました。日が経っても帰宅の話が出なかったので、彼の性格を考え、帰るよう促すも「連休じゃけえって何で帰らんといけんのん。みんなが帰ると思われんで。」と優しくお叱りを受けました。これまでの連休＝帰宅という自分の思い込みに反省。結局、帰りたいともなく「ラーメン買った」とマイペースに楽しんでいました。

（ひとは長屋　高木亮輔）

「細やかな道下さん」

一日の作業を終え、片付けをしていると、そっとドアを開け「さようなら」とあいさつ。その後今日のカープの対戦相手や投手、球場等々…たまには解説者の方まで、詳しくチェックして教えてくれる道下さん。

この細やかさはカープだけではありません。あっぷの中の忘れ物や落とし物にもよく気付いてくれたり、おかきのメンバーの誕生日も覚えてくれていたりと、いろんなことに気付いて教えてくれます。

"いつも細やかですごいな、見習わないと"と思いながらも中々そうなれない私は、道下さんに助けられる毎日です。

今日のカープの対戦相手はどこですか？道下さん

（就労センターあっぷ　奥田照子）

「沖本さんの笑顔」

ホームの沖本憲明さんに「おばちゃーん」「おばちゃーん」と大きな声で呼ばれて行くと「今日のごはんは何？」と聞かれるのがいつものやりとりです。

この間の土曜日は他人丼でした。「夕食は何？」と聞かれ、丼物が苦手なので「ごはんと肉に分けとくよ」と伝えると、すごく満足そうな笑顔で「う～ん！」と返事が。沖本さんの笑顔に、私も嬉しい気持ちになりました。

（食事部　迫岡明枝）

「日々の私」

私は、勤めていた所を退職し、ひとはのスタッフとなって7ヶ月が経ちますが、他のスタッフの人はみんな優しくていい人ばかりです。

日々私が行っているのが、昼休みにきららと一緒にグラウンドゴルフ（雨の日は室内で卓球）です。冗談で「へたくそ―。」と言いながら国慶さんや水田さん達と楽しくやっています。そのせいか、笑いすぎて顔のシワが多本増えたように思います。

顔のシワが気にならない方はぜひきららと一緒にやりましょう。楽しいですよ！

ひとはだヨ！全員集合

（ひとは工房　重原泰典）

「発見する喜び」

お散歩中「電線を繋いでる東京タワーみたいなの何？」と聞いてきたK君。私は分からなかったのでK君と調べる事に。（私）「何って検索すればいいかね。」

（K君）「電線・タワー」と調べてみたら？」2人で呟きながら調べると、送電塔という事が判明！そこから2人で送電塔探しスタート！K君はぴあ・くらぶに帰ってからも色々なスタッフに「送電塔って何でしょうか！」とクイズを出したり、ブロックで塔を作ったり。K君の得意気な顔が忘れられません。大人だって知らない事があっても良い。共に発見し、共に喜び合うのも大切な事だと感じました。

（ぴあ・くらぶ　清水智夏）

35年目の夏。「結果後記」

この夏我家に、コウガンザイ君とフクサヨウ君が住みついた。文尚さんと私は朝・夕の散歩を欠かさず、たった500gの体重減におびえる。今から35年前の夏、ひとはでは仕事の手を休め、来客があるとすぐおしゃべりする私たちに重広さんは「これじゃあ、ひとはは つぶれる」と、ぶやいた。

農業組合からのもものを一つ。（文尚さん）食べれるかの？」勧めると断らぬ男は今も変らず。「アリガトウ」

（尾崎順子）